

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

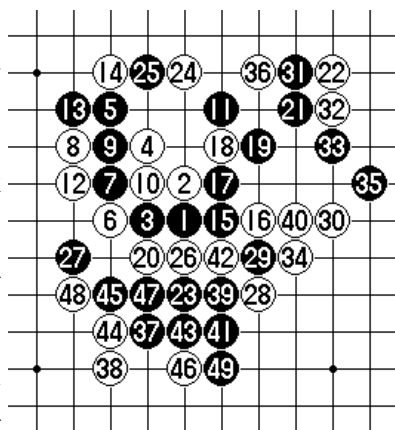
● 第135回 ●

■ 衝撃の初優勝！

前回の世界戦に続き、今度は国内のA級リーグだ。世界戦の結果からして中山九段の優勝は50%以上あるのではないかと思っていた。連珠世界誌の予想でも前年のシードと汪七段の争いと書いたのだが：結果は汪七段が7勝1敗1分の成績で見事初優勝を遂げた。中山君には負けたく、勝った局は危なげなく、内容的にも優勝にふさわしいと言える。ご存じの通り神谷名人夫人で今年の世界戦WTの優勝者だが、優勝は正直まだ早いと思っていた。ある意味番狂わせの優勝だが、日頃の実力を知っている者としてはあまり驚くことでもない。早速

だが、今回は汪七段の局を振り返ってみたい。

黒 汪 白 真野

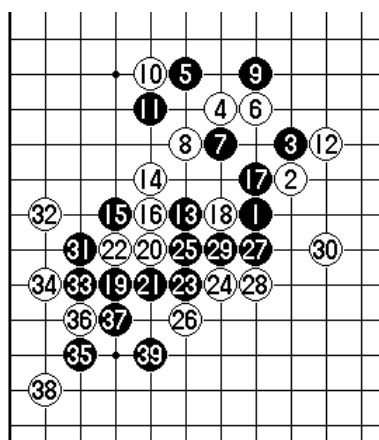


初のA級、さすがに緊張したのだろう。結果的に緒戦の真野戦が勝った局の中で一番てこずったようだ。黒27までもたもたしていたが、黒37から何とか手を作って49まで勝ちにたどり着いた。最初の一局を勝って落ち着いたのだろう、それからの局は強さを発揮した。

思っていたが、このA級で6局も出ている（そのうちの半分は汪さんが打っている）。

汪さんは神谷名人と同じく黒が大好きのような。多少不利な局面でも黒番で組み立てる実力があつてのとだろう。

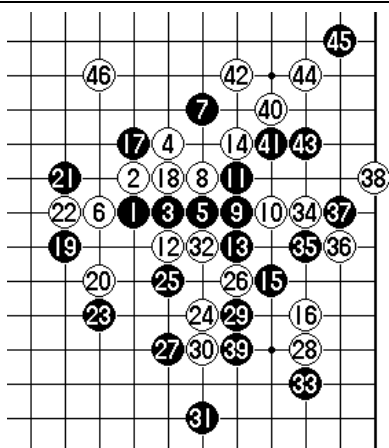
黒 汪 白 高嶋



黒19では20や21に打ちつのが彼女の感覚でもある。白26は一路下に（夏止めで）防ぐのが良かったが、そう打つても展開できる構想はあつたのだろう。続いて第3局。強豪牧野

さんとの一戦である。黒の趣向を堂々と受けて立ち、楽々満局に持ち込んだ。

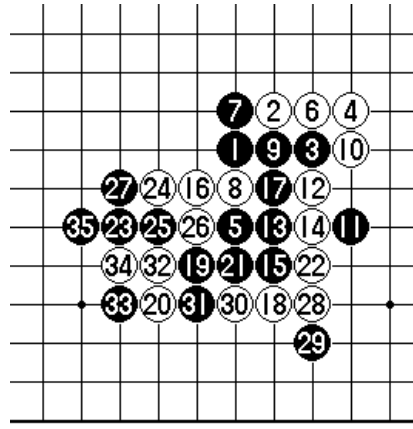
黒 牧野 白 汪



黒23まで白有利に展開しているが、私が感心したのは白24の手。普通なら29と剣先を止めると思うのだが、剣先よりも盤面を支配する手を選んだと言えるだろう。なるほど、こういう手を打って勝つのか、と感心した。

これで初日2勝1分と早くもトップに立った。ただ、汪さんは後半に強豪相手にあたるのでまだまだと思っていた。

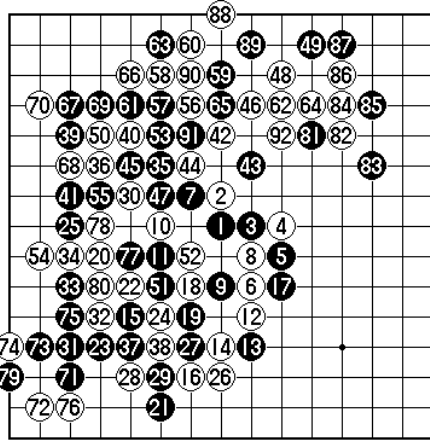
2日目に入り、ますます
冴えてきたようだ。まずは
館戦。この局も注目だった。
なぜなら、流星の難型に戻
っていたからだ。何か新し
い作戦があると思ったが、
白が防ぎ間違えたのであっ
という間の終局となった。



白16は焦点止めが絶対
ということは広く知られて
いる。館君がそれを知らな
かったのは意外だが、当然
この時の勝ちも知っている。
一見勝ちがないように見え
るが、黒23が勝ちを決める
一手。通常流星とは二路距

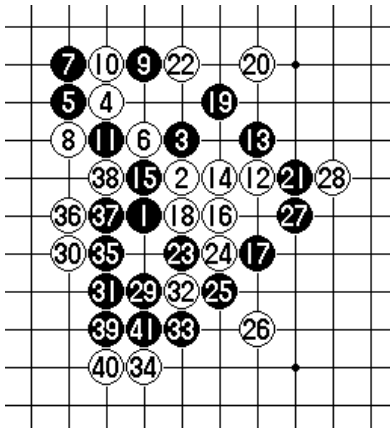
離が違うので、そこに何か
新作戦があったものと思わ
れる。こういう所を突くのは
作戦としては優秀である。
続く久家さんに勝ち、中
山君に負けたものの、2日
目を終わって4勝でトッ
プに並んだ。ただし、同星
で4人が並ぶという大混戦
となっており、汪さんは残
りの対戦相手がキツイな、
と思っていた。

黒 松田
白 汪



第7局は松田五段。東日
本地区2次予選では汪さん
が勝っている。白番の時も
牧野戦同様、厳しい手を打
ってくる。中盤以降黒を振
り切って最後は四々禁で仕
留めた。

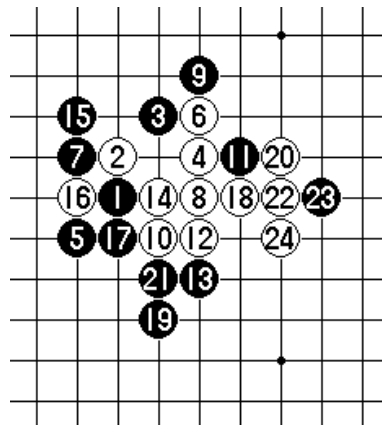
黒 汪
白 河野



白12に対する黒13はな
かなか浮かばないが、空間
を支配する方が大事という
考えなのだろう。対して白
は引きすぎたよう、反撃
に転じるとあつという間に
黒勝ちとなった。

第8局を終わって中山君
と汪さんが同星でトップを
並走した。ただ、汪さんは
最終戦岡部九段との一戦で、
まだまだ簡単ではないと思
っていた。

黒 岡部
白 汪



最終局、岡部君の方が意
地の10題提示で黒を取っ
た。黒7が当然に見えて良
くなかった。白8で黒はし
びれてしまった。12から止
めると白11で身動きが取
れない。白18の突き出しが
優勝を決めた一手だった。
中山君が満局となり、決定
戦なしで優勝が決まった。
挑戦手合いが楽しみだ。